



## JA おちいまばり TAC 活動 ～レインボープランにおける TAC 活動の取組み～

もり やす ひろ  
**森 康弘**

愛媛県・JA おちいまばり 営農振興部 部長

※本稿は2021年11月に行われた TAC パワーアップ大会での発表より構成しています

### JA おちいまばりの概要

当 JA は、平成9年に愛媛県今治市・越智郡の14JA が広域合併し、愛媛県と広島県をつなぐしまなみ海道の島しょ部を含めて管内としています。しまなみ海道は「サイクリストの聖地」として知られ、サイクリング、観光に訪れる方が増えています。

正組合員(9,606人)が減少傾向にあり、准組合員(26,879人)が増えています。今年度から正組合員の加入要件を変更し、正組合員の加入推進に取り組んでいます。

主要な農産物は、島しょ部、陸地部の山間部での柑橘、平野部では米麦、野菜など多種多様な農産物が栽培されています。

生活関連部門と農業生産法人の二つの子会社をあわせて、JA おちいまばりグループとして経営しています。

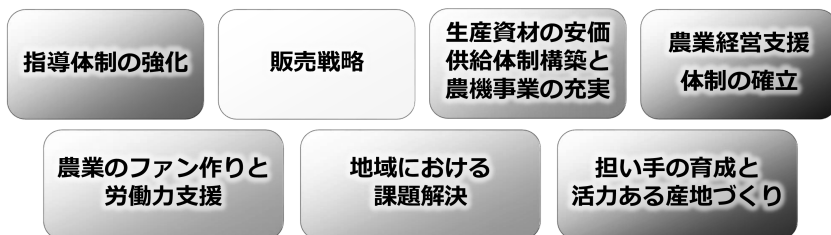


### TAC 活動の概要

当 JA の TAC 活動は、統括責任者1名、指導を行うリーダー4名、指導員(営農指導員も兼務)18名で活動しています。毎月第1火曜日に、担当役員、営農部門部課長、融資担当者、JA 全農えひめの職員と月例検討会を行っています。役員や各部門長が参加することで、毎月の課題、問題点に迅速に対応し、情報共有に努めています。

JA の第7次中期計画が開始された平成28年から農業振興計画「レインボープラン」を策定し、大きな七つの方針を定めるとともに、七つの

## ■ 営農経済事業における7つの方針（平成28年～）



## ■ 重点推進7品目の設定

- ①きゅうり ②里芋（伊予美人） ③はれひめ  
④愛媛果試第28号（紅まどんな） ⑤甘平 ⑥キウイフルーツ  
⑦花木（ビブルナム・ティナス、ピットスポラム）

重点品目を設定しています。TACは、このレインボープランを中心に地域の農業振興に取り組んでいます。

## 里芋生産拡大による持続的水田農業経営モデルの構築

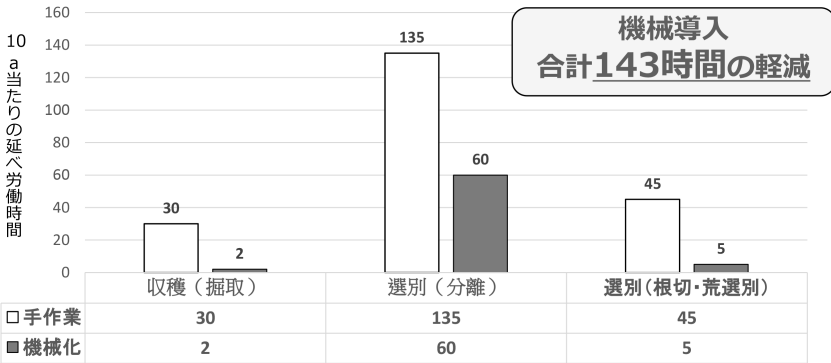
### (1) 里芋生産拡大への課題と要望

里芋生産は平成24年からはじまりました。TAC活動のなかで、農家の要望や課題を抽出したところ、「作業時点での重労働」「収穫期の人員確保」が課題とわかりました。高齢者はもとより、若手の新規栽培者からも同様の意見があり、この課題を解決するため、里芋の機械化体系を推進しています。

### (2) 機械化一貫体系の提案

中小規模の農家へは、農業機械を貸し出す農業機械銀行の利用を推進しています。埋め立て機、種芋定植機を活用して作付け、植え付けを進めるとともに、JAの助成事業を活用した機械化を提案しました。令和2年度は90件、約695万円の助成実績となっています。また、2年間で151件、約1,273万円の助成を行いました。水田から土地利用型の高収益作物である里芋への転換を進めています。

機械導入による労働時間の変化



法人や大口農家には、里芋の大型掘り取り機の開発、導入提案を行っています。里芋の専用機はなく、サツマイモの掘取機を改造した大型の掘取機を法人へ提案しました。また、県へ事業提案を行い、採択され、県単事業を活用して2法人が導入しました。今後も1台の導入を計画しています。

### (3) 機械導入・選別省力化の成果

機械化により収穫作業の労働時間が大きく削減され、最大143時間の軽減となりました。また、JA 全農えひめを中心に4JAが連携し、愛媛県さといも広域選果場を運営しています。粗かぎ（子芋・孫芋を分離しない出荷方法）利用によるさらなる省力化を目指しています。

### (4) 機械化一貫体系の効果と推進

令和3年度の実績は、84名、33haとなりました。過去3年間で2倍

里芋生産の年度別推移

年度	H24	H30	R 1	R 2	R 3
生産者数 (人)	21	44	57	69	84
作付面積 (ha)	2.4	16.4	21.1	27.9	33.0
販売高 (千円・税抜)	8,710	72,290	127,460	160,618	180,000

の生産者数、面積となっています。販売金額1億8,000万円を目標に、9月13日から出荷を開始しました。また、8月には念願のドローン防除での農薬登録を取得し、防除試験を実施しています。夏



ドローン防除の様子

場の農家の負担軽減、防除時の負担軽減のため作業受託を計画しており、さらなる面積拡大と省力化を進めた農業振興に取り組んでいきたいと考えています。

## 新規就農サポート事業における担い手農家の育成

### (1) 担い手育成の課題と要望

特に島しょ部では高齢化が顕著で、担い手不足、耕作放棄地の対策が急務となっています。

### (2) 新規就農サポート事業の取組み

平成29年度から、JAの新規就農サポート事業を開始しました。行政や全農の担い手サポートセンターと連携して担い手育成を行っています。募集から研修の受け入れ、独立、就農まで、役割分担しながら協力して取り組んでいます。また、幅広い新規就農者を募集するため、昨年度よりJAで研修生を受け入れています。研修先は地元篤農家へ委託し、野菜、米麦へ研修範囲の拡大しました。大事なのは、新規就農希望者への最適な支援計画を立てて実践していくことだと思います。



地元の農家と研修生

また、担い手の育成には

地域の協力が不可欠です。そこで地域とのつながりの強化のため、積極的に地元の行事や活動への参加を支援しています。地元の職員が中心となって、研修以外の時間も広く支援を行い、地元信頼され、期待され、地域の農業振興にする新規就農者の育成を行っています。

### (3) 新規就農サポート事業の成果

農地の幹旋や定植支援、栽培管理を実践し、独立時に1人当たり1haから1.5haの農地を幹旋しています。研修後はJAのTAC指導員が指導にあたっています。

研修生の受け入れ状況

年度	H29	H30	R 1	R 2	R 3
人数	3名	2名	4名	3名	2名
性別	男3	男1・女1	男4	男2・女1	男1・女1

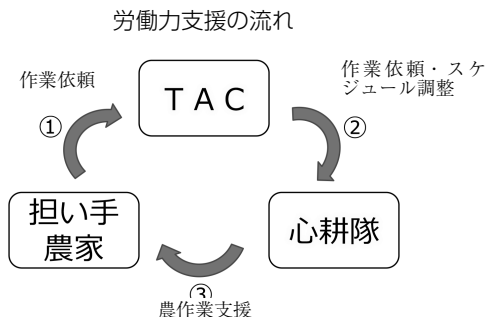
## 労働力支援事業の発展について

### (1) 労働力支援の課題と要望

2012年のTACパワーアップ大会での発表事例を参考に、平成25年から労働力支援事業を実施しています。農家の課題解決のために、果樹の農作業支援を行う「心耕隊」を結成しました。また、人材派遣会社と連携した「農業応援隊」も開始しました。

### (2) 活動内容・実績

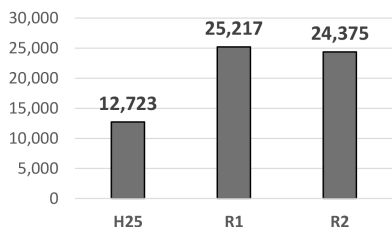
TAC指導員の活動については、農家の支援要望に応じて、作業依頼やスケジュール調整を行っています。作業の実績については、近年、



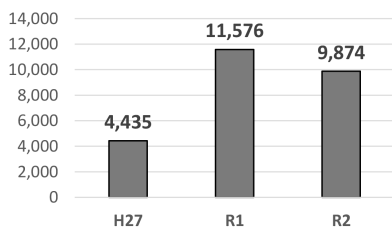
2,400万円前後で推移していますが、非常に多くの支援要望があがってきています。

労働力支援の流れとしては、TAC→心耕隊→担い手農家となり、連携を図って支援をしています。

心耕隊の作業実績（千円）



農業応援隊の作業実績（千円）



また今年度から新たな労働力支援として、JTBと連携した作業や、地元企業との人材紹介アプリの活用を始めました。TAC指導員がアプリ等を紹介し、労働力確保の手伝いを行っています。

## TAC活動の今後の方向性

JAおちいまばりでは、TAC活動の方向性を昨年度から「人が拠点」を合言葉に人材育成を進めています。

TAC指導員一人ひとりが、さまざまな実践を通じて総合的な能力アップを図り、農家組合から信頼され、具体的な提案や実践ができるよう育成を行っています。その活動で地域の農業生産振興と農家所得向上を進めていきたいと思えます。

## 全国のTACの皆様へ

私たちは、「地域農業の担い手に出向くJA担当者」として、様々な課題解決に取り組んでいます。1番身近で、信頼される担当者となるよう日々活動しています。

活力ある地域農業の発展に向け、なくてはならない、必要とされるJA担当者とともに目指していきましょう！